令和３年度　　学校自己評価シート　　上田市立川辺小学校

Ａ：達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：やや達成できなかった　Ｄ：達成できなかった

学校教育目標	重点目標（中期目標）	今年度の重点	総合評価
たくましく　かしこい子どもの育成	深く考え取り組む子ども（知） ⇒ かんがえよう 思いやりのある子ども（徳） ⇒ つなげよう 健康でがんばりのきく子ども（体） ⇒ きたえよう	一人ひとりの子どものよさに目を向け、学びを深めていく授業づくり	・コロナ禍で活動が限られる中、何が可能か不要か、何を大切にすべきか、目標達成に向けて意識して取り組むことができた。 ・子ども同士による協働的な学びに重点を置いたことが、学習意欲や粘り強い学びにつながった。 ・大規模校であっても、一人ひとりの良さに目を向け、様々な活動場面で子どもたちと関わることの大切を感じることができた。 ・子どもたちの自発的で主体的、探究的な学びを授業のユニバーサルデザイン化意識しながら支援することができた。 ・重点目標達成に向け、ICT 機器の学習場面での活用を情報教育係が中心となり、進めることができた。

分野		評価項目	評価の観点	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	最終評価
教育活動	教育課程	地域と連携した教育課程づくり	地域の素材・人材の参画を図った活動ができたか。		○			・生活科学習の中で、調理活動等、保護者の方々や地域の方々の力をお借りしながら活動に取り組む機会を設けることができた。 ・コロナ禍の中ではあるが、米づくりで地域の方に田んぼの作業や、しめ縄づくりなどを教えていただくことができた。 ・歴史資料館に通い、地域の昔を学び、その中で『つむぐ』の意味も知り、養蚕に興味も持つことができた。 ・太鼓学習では地域の方との交流を大切にしながら学ぶことができた。 ・Chromebook についても授業の中で意見交流の場面等、活用機会を増やせた。今後、学年や発達段階に応じた活用の在り方を考えたり、活用に適した場面を精選したりしていきたい。 ・Chromebook の利用が授業、家庭学習等でできるようになってきた。ジャムボードでの意見交流や欠席児童の meet による授業参加もできた。 ・音楽における Chromebook の活用方法の研修をしていきたい。
		chromebook（タブレット端末）やICT機器の活用	chromebookやICT機器を活用した授業づくりに取り組むことができたか。		○			
	かんがえよう	最後まで話を聞く	発表者以外は静かに話を聞くよう、働きかけたか。	○				・自分の考えをもち、伝え合う学習の形式やリズムが定着してきている。２学期以降は課題追究後の振り返りを大事にしてきた。学習課題の振り返りを継続してくる中で、一つ一つの考え方のよさに気づいていく子どもが少しずつ増えてきている。そのような子どものよさを学級全体、学年全体、さらには学校全体へと広げていくことができるようにしたい。 ・コロナ禍ではあったが、自分の意見を表現できる場を確保するために感染レベルに応じてペアやグループでの意見交換の場を設けた。少人数の中では意見を言える子もいるのでペアやグループでの話し合いは今後も積極的に取り入れたい。 ・発表や表現の時間が十分に確保できない分、考えや意見を書きとどめる活動を増やすことができた。 ・伝え合いを大切にコロナ禍でもできる対話的な授業を模索したい。 ・1 時間、また単元を通して追究の見通しが立てられるように学習問題を構築していきたい。また学習課題の振り返りを意識することができた。 ・Chromebook を用いて発表場面を撮影し、どの子も発表に向き合えるようにした。 ・中学校進学を意識して、聞く態度・話す態度を指導してきた。ねらいを明確になる話し合いや助言を意識して行い、学習の振り返りも位置づいた。
		自分の考えをもち、書く	わかったこと・気がついたこと・思ったことを書く時間を確保していたか。		○			
		進んで伝え合う（発表・表現）	子どもたちが意見を出し合う時間を確保していたか。		○			
		一人ひとりが追究する	一人ひとりが見通しを持って追究ができるように、ねらいを明確にした授業を心がけたか。		○			

つなげよう	心をこめた明るく元気なあいさつ	日常的な声がけや児童会活動により、あいさつのよさを自覚させながら、積極的にあいさつをしようとするよう働きかけたか。		○			・挨拶を担任自ら積極的にしてきたが、児童からすすんでという姿は、もう一歩であるので、これからも呼びかけていきたい。 ・朝廊下で行き会う子どもたちに自分からあいさつし、あいさつをすることの良さを伝えるよう心がけた。 ・全体的に見ればよい挨拶ができているように思える。自分から積極的に挨拶できればよいが、他者から挨拶された時に返答できる姿もしっかりと評価したい。 ・音楽会を通して、歌声を響かせる心地よさを感じていた子どもがたくさんいた。感染状況に応じた活動の中で、年間を通じて歌声を響かせ合えるような機会を設けていきたい。 ・音楽学習発表会の形だったが、保護者や他学年の前で歌うことができ良かった。練習を通して、上達している実感を多くの子どもたちが味わうことができた。 ・音楽発表会をきっかけに、女子を中心に歌うことに興味を持ち始め、合唱部入部者が増えた。 ・コロナ禍で、歌うことが制限されているが、日々声を響かせることによって育つ力・豊かな感性を今後も大切にしていきたい。 ・コロナ禍での歌唱活動はレベルにより制限があり、計画通りにいかないことが多いが、コロナ警戒レベルが下がってクラス単位の合唱や、合唱班活動ができる時は、歌うことの楽しさを感じながら歌うことができた。 ・帰りの会で、頑張った人を発表する中で、友だちの良さを見て発表できた。 ・友だちのよい姿（今日見つけた友だちのキラキラ）を毎日帰りの会で発表し合うようにしてきた。 ・お互いの気持ちに気づき、行動できるように指導してきた。教師率先の立場で指導してきた。自然に、支えあう人間関係ができてきた。 ・教師が児童たちのよき模範となるように、日々人権感覚を正しくもち更新し、児童と接することが肝要である。 ・道徳だけでなく日々の生活の中で思いやりについて振り返る機会を設けた。 ・コロナ禍の中でどのようなあいさつの形が考えられるか自問する日々であった。人権意識を高め、思いやりあるあいさつを意識させていきたい。 ・自分説明書を作り、道徳的な意識を高められるようにすることができた。 ・毎日帰りの会で友だちのいいところを紹介し合う場を設けてきた。自分がしてもらってうれしかったことだけでなく、客観的に見てよかった姿を紹介することがずいぶんできるようになってきた。 ・自分たちで判断して行動した際にそのよさを認める声掛けを続けてきている。今後も継続していきたい。 ・様々な活動を通して、いつも人の立場を考えて動いているように思う。譲り合い、あいさつ、感謝を伝える行動、友だちを助ける行動等、多く見られた。
	ひびく歌声	全校音楽、学年音楽、音楽会で歌う時間を設け、子どもたちが共に声を合わせて歌うよさや楽しさを感じるようにしたか。		○			
	相手の気持ちを考えた思いやりのある行動	自分や友達のよさを大切にするよう、日常の様々な事象をもとに、子どもたちに考え行動するよう働きかけたか。	○				
きたえよう	外で元気に体を動かす	外へ出て元気に体を動かすよう、遊び時間や運動時間を確保しているか。	○				・休み時間になると、外で時間いっぱい遊ぶ姿が見られた。 ・朝の活動の時間に学級の時間が多くあったため、子どもたちとどのように過ごしたいかを相談して、皆で外に出る機会を多く設けられた。 ・暑い日も寒い日も外で元気に遊べる子どもたちが多い。休み時間はできるだけしっかり確保するように心がけた。 ・休み時間には、子どもたちと外で遊ぶことができた。ほとんどの子どもたちもたちが外で遊ぶようになり、子どもたちの様子も分かるようになった。 ・寒い冬でも、体育委員会からいただいたマラソンカードのおかげで、マラソンに取り組もうとする子どもが多くいる。 ・給食指導では、感染予防と好き嫌いをなくす、食事のマナー、感謝の気持ちをもつこと等、多くの学びが期待されていることを意識して指導に心がけたい。
	給食をしっかりと食べる	自校給食のよさを生かし、子どもたちが感謝の気持ちを持ってしっかりと味わって食べるよう工夫したか。		○			
	規則正しい生活	教師も子どもも時間を守るようにしたか。	○				
	共に鍛える	全校体育、運動会を通して、なかまとの共同の喜びや達成感を得させることができたか。(「自己評価カード」で		○			

			振り返りを行う。）					・授業の終わりの時間を意識してきた。４５分間の学習習慣を大切にしたい。
		基礎学力の定着	スモールステップ学習やドリル学習の継続など、基礎事項の定着を行っていたか。		○			・高学年となり、リズムの乱れが目立つ児童がいる。頭ごなしの指導ではなく、整った生活リズムの良さを感じられるような指導を意識したい。 ・コロナ禍で十分な活動はできなかったが、運動会が開催でき、共同での喜びや達成感は全校で味わうことができた。 ・昨年度は運動会を行うことができなかったため、たくさんの方に見ていただくことを楽しみにしながら練習に取り組んだり、運動会当日にたくさんの応援や拍手をもらったり、他学年の児童の一生懸命な姿に刺激を受けたりと、様々な満足感を得られる機会になった。 ・年間を通して計画的に全校体育や全校音楽を行っていきたい。 ・繰り返しの学習を意識し、基礎基本の力がついてきた。 ・CRT の結果を今後の指導、支援に活かしていきたい。 ・コロナ禍で様々な活動が制限されている中だからこそ、今は基礎学力の定着には充分な時間をかけていくようにしたい。 ・練習問題のやりっぱなしでなく、「振り返り」の位置づけの重要性を感じている。次時の想起しやすさに違いがあった。 ・国語や算数を中心に常時活動（ドリル的な活動）に取り組み，学習の補填や定着を進めてきている。 ・ドリルソフト「e ライブラリ」を用いて、早く終わった児童への追加課題などを容易に配布することができた。
	生徒指導	安心・安全な学校生活	学校のきまりやマナーを守って生活するように働きかけたか。		○			・廊下歩行については、引き続き啓発していきたい。 ・ろうか歩行など課題はあるが、委員会活動と連携させながら充実したものにしたい。 ・都度，振り返りをしながら今後も自分の行動を振り返られる機会を設けることができた。
		心を込めた掃除	「もくもくタイム」を通して、心を込めた掃除を行い、学校や教室の環境整備ができたか。		○			・６年生が寒い中、朝清掃をしているのが、ほんとうにありがたい。今年は、清掃範囲を広げたことで、低学年の児童もその姿から影響を受けているように感じている。 ・黙々と取り組む高学年の姿から低学年もどんどんと集中した姿を見せている。 ・児童会の呼びかけから意識を強められたように思う。 ・清掃の始まりの黙想をクラス全員ですること、無言清掃への取組を毎日確認することで落ち着いて清掃に取り組むことができた。各掃除場所の清掃の仕方をより丁寧に確認し、やることが明確な状態で清掃に取り組めるようにしたい。 ・無言清掃を徹底してきた。無言清掃と言われなくても、集中して無言になる清掃を子どもたちと共に心がけていきたい。
学校運営	保護者との連携	家庭学習の充実	家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけができたか。		○			・家庭学習を精選し、一つ一つの課題に丁寧に取り組む意識をより高められるようにしてきた。自主学習の仕方や選び方、支援について今後も検討したい。 ・コロナ禍におけるＰＴＡ活動の在り方を見直し、広く浅く協力を仰ぐ形に変えていきたい。 ・長野大学の学生ボランティアを希望していたが、今年度もコロナの影響で断念した。状況が収まれば、積極的に連携していきたい。 ・コロナ禍であっても ICT 機器など利用しながら外部との連携を密にしたい。 ・コロナ禍ではなかなか実現できない出来事が多くあったように思う。これを機に会の運営や精選を進めたい。 ・職員会で今以上に児童理解の時間をとれるようにしたい。 ・日頃の自分の指導や支援が、間違っていたり、行き過ぎたりしていないか確認できる機会は定期的に設けていきたい。
		ＰＴＡやボランティアとの連携	学校はＰＴＡやボランティアとの連携を行っているか。		○			
	研修	児童理解・非違行為防止研修	児童理解・非違行為防止等の研修を行い、自己研鑽に努めたか。	○				